

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：町浦 美智子

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学、助産学	思春期から更年期までの看護支援、セクシュアリティ
学位	最終学歴
博士(看護学)	カリフォルニア大学サンフランシスコ校博士課程看護学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2017年版	共	2017年02月	日本看護協会出版会	担当箇所：責任編集および分娩期の診断とケアについて、第1章助産師が行う分娩期の基本的な考え方（p. 2-11）、第4章分娩第1期から4期間での経過に伴う診断・アセスメントとケア（p. 104-146） 大橋一友、佐々木くみ子、中嶋有加里、中野美佳、町浦美智子、村上明美、田村正徳
2. 助産学実習プレブック 助産過程の思考プロセス	共	2015年11月	医歯薬出版	担当箇所：責任編集および第1編 産婦のアセスメントとケア 初産婦と経産婦の分娩期の援助 高知恵、佐々木くみ子、佐保美奈子、古山美穂、町浦美智子、山田加奈子
3. ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護 第2版	共	2011年03月	ヌーベルヒロカワ	担当箇所：パート I VII女性の健康と家族看護（p. 105-115） 高橋真理、村本淳子、町浦美智子、他 24名
2 学位論文				
1. Experiences of pregnancy among Japanese teenagers : Decision s and perceptions of being a p regnant teenager	単	1997年06月	University of California, San Francisco, School of Nursing Doctoral Program	グラウンデッド・セオリー法を用いて、十代で妊娠を継続している妊婦17名を対象に妊娠中の主観的経験に基づく理論の構築を試みた。妊婦の主観的な経験は妊娠の継続を決意するまでの過程と妊婦としての生活から記述できた。
3 学術論文				
1. 第2子出産後3か月間に母親が経験した子どもとの関わりに対する思い	共	2015年07月	母性衛生、56（2）、359-366	2人の子どもを育てる母親は産後1か月時には第1子と第2子それぞれの関わりでのバランスの悪さ、3か月時には2児とのかかわりの不十分さを感じていたが、子どもがきょうだいと感じ、2児の育児の楽しさを発見していた。施設や地域での経産婦への育児支援を強化していく必要性が示唆された。 谷郷智美、町浦美智子、佐保美奈子
2. A literature review of the effects of singing intervention for healthy adults or patients with various health conditions	共	2014年03月	大阪府立大学看護学部 紀要、20（1）、101-111	妊婦への歌唱介入による研究実施に先立ち、さまざまな健康状態にある患者を対象とした歌唱介入の効果を検証した。1,795文献の内、5文献がRCTによる介入研究であり、対象者はCOPD、認知症、高齢者、パーキンソン病などの患者であった。歌唱の効果として部分的に不安の軽減やうつ状態の改善、QOLの向上などがみられたが、サンプルサイズが小さい

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 第2子出産後3か月間に母親が経験した感情の変化	共	2014年03月	日本母性看護学会誌、14 (1)、43-49	めにその効果の一般化は困難であった。 Masako Miyamoto, Michiko Machiura 2人の子どもを育てる母親14名に産後1か月時と3ヶ月時に面接した。その結果、母親は産後1か月時は第1子の育児経験から余裕を持ち育児に楽しさを感じる反面、慣れない2児の育児に大変さを感じていた。産後3か月になると生活のペースをつかむことで2児の育児を楽しんでいた。看護職者はこのような母親の感情の変化を踏まえては母親が自分なりの育児を確立していけるように支援する必要がある。 谷郷智美、町浦美智子
4. 在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	共	2013年07月	大阪母性衛生学会雑誌、49 (1)、94-99	在日韓国・朝鮮人の男性41名、女性37名の若者(平均年齢26.45±3.77歳)の性に関する現状を調査した。性交相手がいる34名中いつも避妊しているのは10名のみであった。性知識得点は在日学生に比べて低く、伝統的価値観は高い傾向を示した。 椿知恵、町浦美智子、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子
5. 妊婦の安全な運動姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	共	2013年07月	大阪母性衛生学会雑誌、49 (1)、67-72	妊婦485名より正しい運動姿勢についてWeb上で動画を視聴した教材に対する評価を得た。良いと評価したのは97%であり、動画で運動姿勢を客観的に見直すことができたことであった。改善点では正しい運動姿勢と間違った姿勢での衝突映像を比較したいとの意見があった。 中嶋有加里、山田加奈子、椿知恵、町浦美智子
6. 妊婦の全席シートベルト着用の意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	共	2013年03月	大阪府立大学看護学部紀要、19 (1)、93-102	妊婦教室に参加した妊婦とメールマガジンの妊婦読者に動画教材サイトを案内し、529名から評価を得た。自由記述回答の回答者数と延べ件数は、良かった点420名500件、改善点328名338件、情報提供の方法75名87件であった。内容分析の結果、98%の妊婦がよいと評価し、具体性58%、意外性16%、単純明快16%であった。改善点は動画編集18%、着用法の説明13%、衝突映像11%であり、家族や一般人への啓発や医療者による妊婦への指導を望んでいた。 中嶋有加里、山田加奈子、椿知恵、町浦美智子
7. 妊娠前の20～30歳代就労女性の食習慣、やせに関する知識、価値観の実態 — やせ体型群と普通体型群の比較 —	共	2013年01月	母性衛生、53 (4)、522-529	無記名自記式質問紙調査によりBMI18.5未満のやせ体型群95人とBMI18.5以上25未満の普通体型群339人について、食習慣とやせに関する知識、食事および健康に関する価値観を比較検討した。両群ともやせが次世代の健康に影響を及ぼすという知識の正解率は3割以下であった。やせ体型群は食事をする時の価値で健康を重視していたが、理想及び健康に良いと思う体重のいずれもBMI18.5未満の割合が普通体型群より有意に多かった。 美甘祥子、町浦美智子、佐保美奈子
8. 月経前症候群の症状を有する女性に対する呼吸法のリラクゼーション効果	共	2013年01月	母性衛生、53 (4)、497-504	20～38歳の月経前症候群(PMS)を有する女性(呼吸群20人、対照群20人)を対象に呼吸法によるリラクゼーション効果を測定した。その結果、呼吸法実施後は副交感神経の指標である心拍変動のHFが有意に増加し、唾液コルチゾールは有意に低下した。気分調査票では「爽快感」が対照群より有意に増加した。よって呼吸法はPMSの女性に対してリラクゼーション効果をもたらすことが明らかになった。 大平肇子、町浦美智子
9. 大学生の性行動およびライフスキルの実際	共	2012年03月	大阪府立大学看護学部紀要、18 (1)、45-55	近畿圏の大学生811名の性行動とライフスキルの実態を質問紙調査により把握した。6割の学生が性交を経験していたが、交際相手のいる学生では9割であった。その中で確実な避妊をしているのは6割であった。目標設定スキルは交際相手のいる学生が、意志決定スキルは交際相手のいない学生が有意に高かった。女性は交際相手に自分の意思を伝えられていない傾向にあった。 林桐代、町浦美智子、佐保美奈子
10. 在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	共	2012年01月	母性衛生、52 (4)、522-528	在日韓国・朝鮮人学生85名を対象に質問紙調査を行った結果、友人との会話が長く、伝統的価値観が高い学生の性交経験率が有意に高かった。伝統的価値観と性交経験率の結果は予測に反した結果であった。 椿知恵、町浦美智子、佐保美奈子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項